



2022年1月12日

各 位

会 社 名 イオンフィナンシャルサービス株式会社
代表者名 代表取締役社長 藤田 健二
(コード番号 8570 東証第一部)
問合せ先 取締役常務執行役員 木坂 有朗
(TEL 03-5281-2027)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年10月6日に公表しました2022年2月期における連結業績予想を、下記の通り修正いたします。

1. 連結業績予想について

(1) 2022年2月期 通期連結業績予想 (2021年3月1日～2022年2月28日)

	営業収益 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想(A)	490,000 ～520,000	46,000 ～51,000	46,000 ～51,000	23,000 ～26,000	106.56 ～120.46
今回発表予想(B)	460,000	51,000	51,000	25,000	115.83
増減額(B - A)	△30,000 ～△60,000	5,000～0	5,000～0	2,000 ～△1,000	
増減率(%)	△6.1 ～△11.5	10.9～0.0	10.9～0.0	8.7～△3.8	
(ご参考) 前期実績 2021年2月期 通期	487,309	40,651	40,238	17,693	81.99

(2) 業績予想修正の背景

当社は、2021年10月6日に公表の2022年2月期の連結業績予想を修正いたします。なお、配当予想については修正ございません。

当第3四半期3ヵ月間(2021年9月1日～2021年11月30日)における外部環境は、展開国・地域において新型コロナウイルス感染症の沈静化に伴う活動制限緩和の動きの中、お客さまの消費の回復に加えて、消費動向の変化に対応した販促施策の実施等により、カードショッピングやキャッシング、パーソナルローン取扱高は前年同期を上回りましたが、営業債権残高は回復が鈍く、低調に推移しました。一方で、審査の精緻化や債権回収の強化に取り組み、貸倒関連費用を改善したことに加え、デジタル化による利便性及び生産性の向上により費用を抑制したこと、第3四半期累計期間の連結営業利益は前年同期を大幅に上回り推移しました。

このような状況を踏まえ、通期業績の着地見込みを精査した結果、営業収益は、営業債権残高の回復が想定より遅れたことや、前年度に連結した保険子会社における年金保険の満期解約に伴う保険収益の減少等により、下方修正いたします。また、貸倒関連費用等の想定外の費用増加リスクが低いと判断し、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は概ね前回予想の上限水準となる見通しとなりました。

上記に記載した業績予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、国内外の景気動向に加え、未だに新型コロナウイルス感染症の収束時期を断定することができないこと等さまざまな要因により、異なる結果となる場合があります。

以 上